

資料編 - 2

建築基準法第 12 条第 5 項に基づく工事計画書 (- 杭基礎による立ち下げ -)

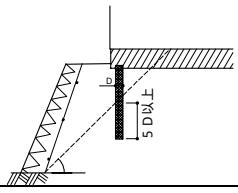
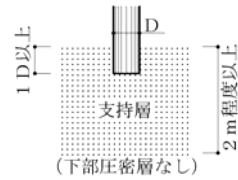
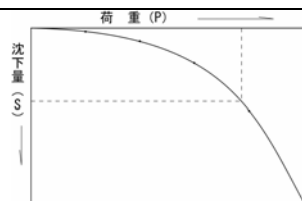
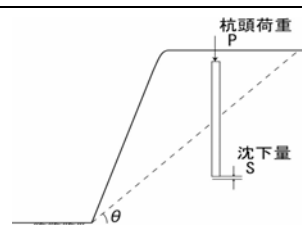
建築基準法第 12 条第 5 項に基づく工事計画書
杭基礎による立ち下げ

部建築事務所 建築主事

平成 年 月 日

【受付番号】平成 年 月 日 H 確申建築横浜 部 号	
【確認番号】平成 年 月 日 H 確認(更)建築横浜 部 号	
【建築主氏名】	
【建築場所】 区 町 丁目	
【設計者】	【設計者資格】 ()建築士 ()登録 第 号
	【建築事務所名】
	【氏名】 印 電話 ()
【工事監理者】	【工事監理者資格】 ()建築士 ()登録 第 号
	【建築事務所名】
	【氏名】 印 電話 ()
【工事施工者】	【住所】
	【資格】 建設業の許可 (大臣・知事) 登録 第 号
	【会社名】 電話 ()

建築確認前の場合は、受付番号と設計者、確認済の場合は、確認番号と監理者、施工者を記入して下さい。

確認事項	内 容	
1 杭材の確認	鋼管杭 認定杭等() 工法) その他(JIS 規格品) その他(既製コンクリート杭等…JIS 規格品)	
2 杭工法の確認	回転圧入工法等 認定杭 信頼できる指定性能評価機関による「任意の技術評定」、「技術審査証明」等 による杭 その他(認定杭等以外)	
3 がけに影響を及ぼさないことの確認 {(1)及び(2)、又は(1)及び(3)適合要} 【注】 杭の根入れ長さについては、本規定、かつ、8「がけ崩壊時の安定性確認」条件適合要	(1) がけの安定角度線以深に 5D 以上根入れ …【添付断面図による】	
	(2) 支持層条件の確認(支持層の N 値 10 程度以上、厚 2m 程度以上、支持層へ 1D 以上根入れ支持層下部に圧密層なし、) () …【添付地盤調査報告書、断面図による】	
	右のいずれか適合要 同様な支持地盤、施工方法による載荷試験による杭耐力、施工管理方法の確認 …【添付資料による】	
	沈下量(S)を算出し、がけに影響を及ぼさないことを確認 …【添付資料、地盤調査報告書による】	
(3) 「回転圧入細径鋼管杭 杭間隔表」、施工管理方法等の条件及び()の条件に適合するもの	資料編 - 6 施工管理方法等の条件及び「回転圧入細径鋼管杭 杭間隔表」による	

(裏面へ)

4	杭基礎範囲の確認	<p>全体杭基礎 部分杭基礎(内側直接基礎支持地盤が関東ローム層程度以上の良好な地山の場合に限る。下記にチェック、H:GL から角度線交点までの深さ) (H 1m、 1m<H 2m、 2m<H 3m)</p>	
5	部分杭基礎の場合、異種基礎対応の確認 (全2項目適合要)	<p>直接基礎部分及び杭基礎部分の沈下量、性状の確認、 比較、上部構造に有害な障害を生じないことを確認 基礎梁断面の確認 (9 基礎梁断面の決定へ)</p>	
6	建築物荷重の算出	<p>壁単位長さあたりの重量の算出 「木造住宅標準重量表」による ・ (屋根 _____、壁 _____、がけ面に平行な軸組みの間隔 _____ m) ・ 階数 (平屋、 2 階) ・ 上部基礎形式(べた基礎、 布基礎) 構造計算等による 【壁単位長さ当りの重量の算出・・・ _____ kN/m】</p>	
7	杭の種別、許容支持力等の確認	<p>認定等の規定に基づき確認 (杭軸径 _____ mm、翼径 _____ mm) 杭の載荷試験による許容支持力の確認 (杭軸径 _____ mm、翼径 _____ mm) (同様の支持地盤、施工管理方法のものを含む) 杭支持層の \bar{N} 値確認 ($\bar{N} =$ _____) 【杭1本当りの許容支持力の確認・・・ _____ kN/本】 「回転圧入細径鋼管杭 杭間隔表」、施工管理方法等の条件による ($\bar{N} \geq 10$) 沈下量からがけに影響を及ぼさないことを確認</p>	
8	がけ崩壊時の安定性確認 【注】 杭の根入れ長さについては、本規定、かつ、3「がけに影響を及ぼさないことの確認」条件適合要	<p>がけの安定角度線と基礎スラブ 交点より内側の基礎の範囲割合が 1/2 程度以上、がけの安定角度線 以深へ杭を、H以上根入れする。 基礎面又は1階床面の面剛性を 確保することが望ましい。</p>	
		<p>がけの安定角度線以深へ杭を、 H以上、かつ2m以上根入れし、基 礎面又は1階床面の面剛性を確保 する。杭間隔は、原則一間(1.82m) 以下とし、杭頭は固定とすることが 望ましい。 その他、杭の剛性、本数等配慮 し、総合的に安定性を確保する。</p>	
杭の水平抵抗等構造計算により安定性確認			
9	杭間隔、配置、杭長、基礎梁断面の決定	<p>【杭間隔の算出、決定】 杭1本当りの許容支持力により杭間隔(L)を算出、決定 杭間隔・・・ $\div = \div =$ _____ L = _____ m 「回転圧入細径鋼管杭杭間隔表」、施工管理方法等の条件から杭間隔(L)を決定 (杭径 _____ mm、杭周面摩擦有効長 _____ m)表より _____ m L = _____ m 【杭長の決定】・・・ _____ m ……【添付断面図】 【基礎梁断面の決定】 L (杭間隔) 1.365m 梁成 500 mm以上、主筋上下 1 - D13 以上、あばら筋 D10@250 1.365m < L (杭間隔) 1.82m 梁成 500 mm以上、主筋上下 2 - D13 以上、あばら筋 D10@200 (杭の配置は、柱直下、耐力壁の両端、コーナー部等に配慮したものとす。杭配置の詳細は、添付杭伏せ図、杭長は添付断面図、基礎梁は添付基礎梁詳細図による。)</p>	

(注意事項)

建築物荷重の算出資料、杭の許容支持力の確認資料、配置図(断面図位置記入)、断面図、地盤調査報告書、及び杭伏せ図他関係詳細図等を添付して下さい。